

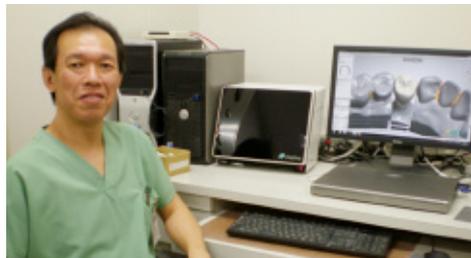
全国に先駆けて大学病院で導入した 歯科技術が全国紙に紹介されました

平成26年5月22日(木)の読売新聞夕刊に、歯学部(高度先進補綴学) 足田准教授らが開発を進め、4月から新たに保険適用となったCAD/CAM冠に関する記事が掲載されました。

従来は手作業で歯科技工士らが制作していた歯の「かぶせ物」。

それをコンピューターで設計し、自動の加工用機械で削り出す手法をCAD/CAM冠といいます。

CAD/CAM冠は耐久性や見た目に優れ、アレルギーを起こす心配もないことから、現在は、施設基準に適合する全国の保険医療機関において導入が進められています。



コンピューター支援設計・製造ユニットと足田准教授



読売新聞夕刊(平成26年5月22日)掲載記事

北海道医療大学から生まれたCAD/CAM冠

歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進補綴学分野 准教授 足田 一洋

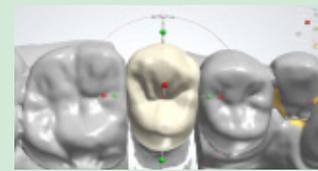
平成26年4月から、本学大学病院で開発を進めていたCAD/CAM冠が新たに保険適用になりました。CAD/CAM冠とは、従来は歯科技工士らが手作業で製作してきた歯の「かぶせ物」をコンピューターで設計し加工用機械で自動的に削り出す手法のことで、平成21年4月、本学大学病院が全国に先駆けて先進医療として承認された治療技術です。

CAD/CAM冠は従来の素材よりも高強度のハイブリッドレジンプロックという材料から作られており、口の中での耐久性や見た目に優れ、アレルギーを起こす心配もないことから、現在は全国の保険医療

機関において治療が行われています。

本学大学病院では、平成11年に最新の歯科用CAD/CAMシステムを導入し、コンポジットレジン、セラミック、チタン、アルミナなどいろいろな材料で臨床応用を試み、臨床研究を行ってきました。そして一連の臨床研究の中で先進医療への申請を検討し、メーカーと共同で材料としてハイブリッドレジンプロックという新規材料を開発しました。

今後、北海道医療大学から生まれたCAD/CAM冠が保険医療における新しい治療法として幅広く利用され、日本国民の健康増進につながることを期待しています。



CAD画面



ハイブリッドレジンプロック

大学院歯学研究科の眞島いづみさんとArafat Kabirさんが 台北医学大学で表彰されました

平成26年5月19日(月)から25日(日)の期間、本学と交流協定を結んでいる台北医学大学にて、第4回口腔医学に関する国際シンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムでは、「トランスレーショナル・メディスン-基礎研究から臨床応用へ」と題したテーマの下、台北医学大学が協定を締結している海外の大学(日本、タイ、オーストラリア、アメリカ、カナダ、フランス、デンマーク)から18名の研究者が招待され、台湾の研究者とともに口腔医学の様々な領域における先端的な研究成果や今後の課題について活発に討論されました。本学歯学部からは、斎藤隆史歯学部長(歯学部う蝕制御治療学分野)と遠藤一彦教授(歯学部生体材料工学分野)が招待され、それぞれ50分の講演を行いました。シンポジウムは、土曜日と日曜日に開催されましたが、週末にもかかわらず多くの学生・大学院生が教員とともに出席し、熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。

シンポジウムに併催して、学部学生と大学院生とを対象とした研究発表のコンペティションが行われま

した。本学からは、大学院歯学研究科4年生の眞島いづみさんと同じく大学院4年生でバングラデシュ人民共和国からの留学生であるArafat Kabirさんが口頭発表の基礎研究部門に参加しました。眞島さんの研究発表(演題名: The Crucial Roles of Autoinducer-2 from *V. tobetsuensis* in Oral Biofilm)とKabirさんの研究発表(演題名: Demineralized dentin graft in tri-cortical iliac bone defect of adult sheep)は、4名の審査委員から研究の内容と討論を含めた発表の技量が特に優れていると評価され、懇親会の席上で口腔医学院院長の歐 取良先生から両名に対して表彰状が授与されました。

今年度における本学と台北医学大学との短期交流事業では、8月に台北医学大学の薬学部と歯学部学生を受け入れ、翌年3月には本学薬学部、歯学部および看護福祉学部学生の派遣を予定しており、両大学間で学生と教員の国際交流が益々盛んになることが期待されます。



欧院長から表彰状を授与された眞島いづみさん
(大学院歯学研究科4年生)



同じくArafat Kabirさん
(大学院歯学研究科4年生、留学生)